

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人福井県文化振興事業団	
施 設 名	福井県立音楽堂(ハーモニーホールふくい)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	22,349	(千円)
	公 演 事 業	12,507 (千円)
	人 材 養 成 事 業	4,973 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,869 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	＜映像で視覚的要素を加えるクラシック音楽普及事業①＞ デンマークからの贈りもの tricolor meets アンデルセン童話の世界	2021年6月16日	演奏:tricolor イラスト・木版画:山福朱実 童話:人魚姫、マッチ売りの少女、みにくいアヒルの子 ほか	目標値	418
		小ホール		実績値	188 ※
2	＜映像で視覚的要素を加えるクラシック音楽普及事業②＞ クラシック・エンターテインメント! ピアノ・バトル	21/9/26 ※中止	※COVID-19の影響により中止	目標値	862
		大ホール		実績値	- ※
3	＜福井メイド公演事業①＞ジュリアン・ラクリン指揮 ミュンヘン交響楽団 ピアノ:モナ・飛鳥	21/11/4 ※中止	※COVID-19の影響により中止	目標値	1,165
		大ホール		実績値	- ※
4	＜映像で視覚的要素を加えるクラシック音楽普及事業③＞ MAROが贈る クリスマス・オルガンファンタジー	21/12/4	ヴァイオリン:篠崎史紀 オルガン:山口綾規 合唱:Smile♪ 映像:SHADECOR(関西学院大学7が* ミックモズ*学生プロジェクト)	目標値	862
		大ホール		実績値	760 ※
5	＜福井メイド公演事業②＞早川りさこ&窪田恵美&中村翔太郎 ~ハーブ・フルート・ヴァイオラ~ 珠玉のチェンバー・コンサート	21/12/12	ハーブ:早川りさこ フルート:窪田恵美 ヴァイオラ:中村翔太郎	目標値	391
		小ホール		実績値	219 ※
6	＜福井メイド公演事業③＞ 「ステージできく」 トリオ AXIS ピアノ:竹沢友里	21/12/23日	トリオ AXIS (ヴァイオリン:佐久間聡一、ヴァイオラ:生野正樹、チェロ:奥泉貴圭) ピアノ:竹沢友里	目標値	391
		大ホールステージ		実績値	232 ※
7	＜映像で視覚的要素を加えるクラシック音楽普及事業④＞ ＜福井メイド公演事業④＞ 《ニューイヤークンサート2022》 テクノロジーとクラシック音楽で遊ぶ新年!	22/1/10	ソプラノ:小林沙羅、テノール:西村 悟、ピアノ:河原忠之、ナレーション:山田恵梨子 ヴァイオリン・ソロ:伝田正秀 チェンバロ:鈴木慎崇 ヴァイオリン:城戸かれん、大江 馨 ヴィオラ:村松 龍、チェロ:伊藤文嗣、コントラバス:大槻 健	目標値	957
		大ホール		実績値	686 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー事業	①21/10/6~22/3/26 ②21/5/4 ※中止 ③21/12/21 ④22/3/26	①弦楽アンサンブル・セミナー ②いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 ※COVID-19の影響により中止 ③トリオ AXIS メンバーによる 弦楽クリニック ④成果発表 「ジュニアが輝く“音楽の森” コンサート 2022」	目標値	400人
		①小ホール、練習室 他 ③④小ホール		実績値	400人
2	越のルビーアーティスト育成事業	①22/2/20 ②21/6/27~ 8/12 ③22/03/20 ④ a21/5/22, b7/1, c22/1/16, d21/5/15, 16, 9/20, 21, 10/17	①公開オーディション ②若い芽コンサート 2021 (レッスン、発表公演) ③福井県新人演奏会 2022 ④越のルビープロジェクト	目標値	2,520人
		①②③小ホール ④小ホール、県内施設		実績値	2,242人
3	レセプションист育成事業	①21/12/25, 26 ②22/2/11	①新人研修 ②フォローアップ研修	目標値	115人
		①②大ホール		実績値	73人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	乳幼児・児童への体験 機会拡充事業～福井の 未来を担う人づくりの ために～	①21/11/14 ②21/10/27, 11/17, 22/2/16 ③21/10～12 ※中止	①秋の子ども音楽会 「ステージできく」コンサート ②ハーモニーぴくにつく ③ふれあい教室 (レッスン、発表会)	目標値	1,590 人
		①大ホール・ステージ ②大ホール ③練習室、大ホール ※		実績値	1,113 人 ※
2	音楽愛好家への活動支 援事業～地域の文化を 担う人づくりのために ～	①21/10～12 ※中止 ②21/9/5 ③21/06/29 ④21/12/11	①初級コース (レッスン、発表会) ②利用促進コンサート ③Trio 遊羽穂 室内楽クリニック ④窪田恵美による アンサンブル・ワークショップ	目標値	831 人
		①練習室、大ホール ※ ②大ホール ③小ホール ④小ホール		実績値	313 人 ※
3	地域での鑑賞機会拡充 事業～感動の輪を全て の県民に届けるために ～	①21/12/18～20 ②21/10/15 ③※中止	①トリオ AXIS アウトリ-コンサート ②弦楽五重奏アウトリ-コンサート ③福井ジュニア弦楽アンサンブル 「アウトリ-コンサート」 ※	目標値	390 人
		①小浜市立雲浜小学校 小浜市まちの駅旭座、武生高校 ②一乗公民館 ③※		実績値	373 人
4	大人世代への学習機会 創出事業～充実した人 生 100 歳時代を生きる ために～	①21/4/20, 7/20 ②21/12/15 ※1/2 回は中止	①ブンカさろん ②ビズネスパーソンのための クラシック音楽アカデミー	目標値	390 人
		①小ホール ②オンライン		実績値	246 人 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="113 342 1477 443">社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p data-bbox="113 472 1477 748">「音楽文化の振興により地域・人・経済の活性化を図り、豊かな心と知性の醸成、地域への愛着と誇りを創出する」という社会的役割を果たす地域のリーディングホールとして、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業を有機的に結び付け、幅広い世代からの様々なニーズに応える事業を計画、展開した。公演事業においては“既製品の再現”ではなく、ローカライズによる当館の独自性を反映させた公演ラインナップを構成、これを主力軸として鑑賞機会を提供する他、出演アーティストの積極的な協力を得てワークショップ、アウトリーチなどの関連事業を企画し、人材育成・普及啓発の両面において事業を横断して波及効果が現れるよう組み立てている。</p> <p data-bbox="113 777 1477 1155">終息の見通しが立たない COVID-19 禍の影響により、今年度事業の一部中止もしくは変更、また規模縮小などの調整がやむを得ないケースがあった反面、当館がこだわり続けているライブ鑑賞体験、リアルな学びの場の提供に対する県民の高い期待を裏切らない事業推進ができた。結果として、公演事業では海外アーティストによる2件の公演中止を除き、他5件では国内アーティストの協力を得て完遂、その中では新たな制作手法を積極的に取り入れ、コンサート専用ホールという当館の特性さらに拡張する総合的な舞台芸術を発信した。人材養成事業と普及啓発事業では、広域からの多数の参加者を集める事業については開催を断念せざるを得なかったが、両事業併せて22件のうち18件のアウトプットを達成しており、広く音楽文化への扉を開き、実演家を目指す者はさることながら、生活の中に音楽を求める多くの愛好家を育てている。</p>
<p data-bbox="113 1207 1477 1256">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p data-bbox="113 1285 1477 1518">公演事業7件は、大きく「映像で視覚的要素を加えるクラシック音楽普及事業」「福井メイド公演事業」の2つのカテゴリーに分けたことが今年度の特徴であり、“クラシック音楽専用ホール”の既成概念をさらに発展させた魅力的な鑑賞プログラムの提供によって、県民の知的好奇心にダイレクトに訴求した。定着している来場者層に加え、新たな鑑賞者層を取り込み、優れたエンターテインメントの提供と、またそれを可能とする当館スタッフの制作能力、クオリティのレベルアップにも繋がっている。</p> <p data-bbox="113 1547 1477 1733">人材養成事業の「福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー」は、平成18年度から16年間続く事業として開講し、今年度は同セミナーOB1名を講師として迎えた。受講当時から高生であった生徒が当事業団の育成事業から巣立ち、音楽人材として成長するという事象が生まれ、蓄えた力をまた地元のために若い世代に還元する循環が確実に生まれている。</p> <p data-bbox="113 1762 1477 1995">普及啓発事業では、生涯学習の視点からオリジナルの普及啓発型事業を実施。アマチュア音楽団体や個人を中心にステージ発表の機会を提供した「オータムフェスティバル」は、COVID-19 禍におけるコンサート運営時の対策やリテラシーの深化のみならず、音楽愛好家育成につながった。また、「ビジネスパーソンのためのクラシック音楽アカデミー」は芸術文化の講座を据えた社員研修を企業との連携で継続開催することで、地域の経済活性化にも寄与している。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

達成状況は下記に示す通りである。

【公演事業】

[目標①] 講習会等参加者の満足度(5段階評価)で最高評価を90%獲得する。

事業1=86.2% 事業4=88.2% 事業5=83.0% 事業6=84.9% 事業7=80.1% | 平均84.5% ※事業2、3中止

[目標②] 新規来場者率を12%まで増加させる。

平成30年度:13.8%/令和元年度:11.9%/令和2年度:10.5%/令和3年度:16.4% ※事業2、3中止

[目標③] リピーター来場率を26%まで増加させる。(事業6:令和元年度から毎年開催)

令和元年度:108件→令和2年度151件(うち37件、24.5%がリピーター来場者率)

→令和3年度112件(うち52件、46.0%)

[目標④] 学生券の販売率を12%まで増加させる。

事業1=18/214枚(8%)、事業2※=108/783枚(14%) 事業4=88/783枚(11%)

※チケット発売後に公演中止が決定。上記は販売期間における実績として記載。

平成30年度:11.6%/令和元年度:11.4%/令和2年度:9.8%/令和3年度:12%

[目標⑤] 当事業団が行うアウトリーチ公演の実施開場数を、年平均40箇所まで引き上げる。

令和3年度:53箇所、年平均(過去5年間):41箇所

・課題としていた青年層の鑑賞機会を創出するため、ビジュアルアートや、最先端技術とのコラボレーションの他、本県のニーズに沿った5つの事業を行ったことから、青年層(学生券)だけでなく新規来場率増にも繋がった。またアウトリーチの開催数は昨年度32箇所から飛躍的に増加し、今年度掲げた目標を達成。

・リピーター率を測った事業は、令和元年度に創設した当館レジデントアーティストによるコンサートである。活動3年目を迎えて着実な鑑賞者増に繋がっているのは、同アーティストが、公演に向けて約一週間県内に滞在する中で、人材養成事業・普及啓発事業において講師として関わったり、アウトリーチ活動に積極的に取り組んだりしていることによる相乗効果であると分析する。

【人材養成事業】

[目標①] 福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー受講者数を、年平均20人以上に維持する。

平成29年度16人/平成30年度:21人/令和元年度:24人/令和2年度:19人/令和3年度:17人=年平均19.4人

[目標②] 福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー受講生が関わる付随事業を、年間5件まで増加させる。

平成29年度:4件/平成30年度:2件/令和元年度:3件/令和2年度:2件/令和3年度:2件

[目標③] 中学生以上の福井県出身・在住者の参加率を12%まで増加させる。

令和元年度:40人(コロナ禍により1公演中止)/令和2年度:67人/令和3年度:80人≒19%増加

[目標④] 若手演奏家を取りまく地域住民の参加者(鑑賞者)を7.9%増加させる。

令和元年度:1,532人(コロナ禍により1公演中止)/令和2年度:2,223人/令和3年度:2,324人

→令和2年度から令和3年度への増加率は約4.5%

・事業1(目標①②)においてはCOVID-19禍により広域から児童・生徒が集まりにくく、海外アーティストとの交流や、集団で動くアウトリーチなどの付随事業回数が制限されたが、国内アーティストによるクリニック、また成果発表コンサートは無事開催することができた。

・事業2については若い層の参加数増(目標③)により次年度以降の実演家育成事業展開に繋がっている。このことを追い風として、今年度未達であった地元鑑賞者数増(目標④)については、新たな目標値を設定して増加率アップに努めていく。

・事業3は今年度新規の取り組みであるレセプション登録者数(目標⑤40人/実績:44人)、県内他施設からのレセプション研修参加者数(目標⑥10人以上/実績:11人)はともに達成。

【普及啓発事業】

・全ての県民が家庭環境や身体等の障害の有無や居住地に関係なく、発達段階や関心の度合いに応じ、適切な鑑賞機会や体験機会を享受できるよう、4つのカテゴリーに分けて実施。各事業を通してワークショップの参加人数の増加(目標⑦:年平均250人/実績:令和元年度357人|令和2年度247人|令和3年度371人)や、利用者コンサート参加者その後のホール利用率(目標⑧30%/実績:令和3年度30%)などを達成できた。その中で、ライブ配信を行うことで、重度の障害を持つ支援校の児童・生徒をはじめ、遠方施設の学校が参加可能となり好評を得たことや、オンライン配信の活用を試み7社からの新規参加者獲得等、成果を挙げている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度も COVID-19 禍の影響を大きく受けたものの、令和2年度に行った公演中止や延期に関する対応のノウハウ蓄積から、出演者との事前打ち合わせやリハーサルなど、感染拡大の状況を注視しつつ柔軟に対応できた。

【公演事業】

事業1、6／海外アーティストから国内のアーティストに変更したためチラシの制作期間は限られたが、チケット発売や広報、リハーサル等は当初の計画通り行うことができた。

事業2、3／中止

【人材養成事業】

事業1／4件中3件を計画通り進行（1件中止）

【普及啓発事業】

事業1／3件中2件を計画通り進行（1件中止）

事業2／4件中3件を計画通り進行（1件中止）

事業3／3件中2件を計画通り進行（1件中止）

事業4／2件中1件を計画通り進行。1件は規模縮小にて実施

上記に挙げた事業以外については、計画通り進行。

なお、中止、規模縮小としたものは、注釈があるものを除きすべて COVID-19 禍に起因する。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

金額の大小はあれ、COVID-19 禍に起因する出演者変更や広報見直し、規模縮小に伴い、支出・収入ともに増減が発生した。

【公演事業】

事業1／上記の理由により、支出・収入減となった。

事業2、3／中止に伴い支出減、収入なし。

事業5／上記の理由により、告知のための広告料等追加計上のため支出増。

【人材養成事業】

事業1／感染症対策を考慮した開講期間短縮に伴うセミナー回数削減により、旅費、謝金の支出減、また付随するアウトリーチ事業を中止したことに伴い、旅費・謝金・諸経費の支出減となった。

事業2／感染数が増加し集客が難しくなった状況下、広報を拡充したため支出増。

ほか、内定後にアウトリーチ会場が決定し、会場費・交通費の支出増。

【普及啓発事業】

事業1／一部開催中止に伴い、講師謝金、並びに成果発表会開催費の支出減となった。

事業2／一部開催中止に伴い、講師謝金やチラシ印刷費の支出減、ならびに、参加費の収入減となった。

事業3／一部開催中止に伴い、交通費、並びに講師謝礼等の支出減。

事業4／一部規模縮小により支出減、収入減。

上記に挙げた事業以外については計画通り。

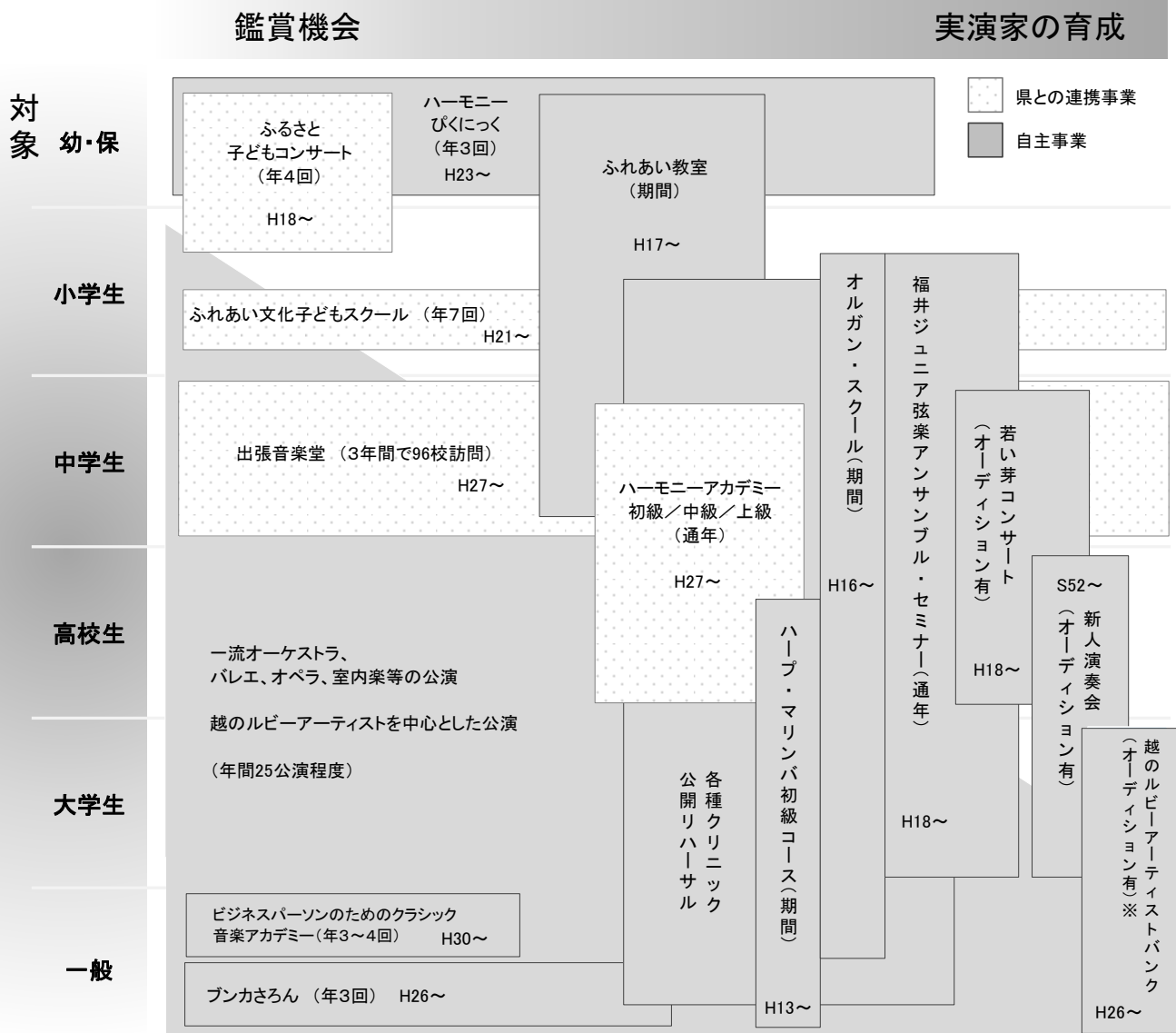
(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

県内で唯一、音楽制作の専門人材を有したクラシック音楽専用ホールであり、その設備および音響特性について「世界最高水準」との評価を得ている当施設は、“総ての県民のための「マイホール」”というスローガンのもと、芸術文化への親しみや高い誇りの醸成を目指し、下図に示す通りの多様なスタイルで事業を提供している。第一級のアーティストを招いて開催する鑑賞公演事業、生涯教育の視点に立った普及啓発事業、未来へと受け継いでいく人材育成事業の3つの事業推進の柱が有機的に連携し合い、幅広い世代に対して創造的な効果を生み出すようにプログラミングされていることが当施設の事業構造の大きな特徴である。

[福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）年間事業計画]



※越のルビーアーティストとは、福井県出身または在住、もしくは福井県内での音楽研鑽経験があるプロの演奏家。毎年オーディションを行い、合格者

本助成により、鑑賞・人材養成・普及啓発のすべての事業において、量・質の充実を図るとともに、地元美術館、他県ホール、また民間業者や専門教育機関などとの協働関係を強めることで、当館の独自色をより強く打ち出している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【県民の信頼を集める生演奏公演】

新規来場率、学生券の販売率ともに目標を達成。着券率は令和2年度（93.8％）に比べ下がったものの、92.2％と高水準を維持している。これまで当館の公演鑑賞の中心が中高年層であったが、新規顧客開拓を狙い「映像で視覚的要素を加えるクラシック音楽普及事業」「福井メイド公演事業」とした新たなアプローチを試みた成果が表れている。学校現場では“リアル”に学べる機会が減っているため、生の演奏に触れることへの大切さを重視されている方が増えていることが分かるが、販売率の向上は、徹底した当ホールの感染対策への安心感だけでなく、コンサート内容への支持が高いことへの表れでもある。

【新たなアウトリーチ事業展開への足掛かり】

これまで生演奏が行き届いていなかった県内過疎地でのアウトリーチコンサートを、東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの近藤薫氏と共に実施。東京大学先端科学技術研究センター特任教授でもある同氏からは様々な知見を得て、廃校利用施設やコミュニティセンターロビーなどを会場として、普段コンサートに足を運ぶ機会が限られている地域住民を中心に“生活と地続きの場”に演奏を届け、当事業団にとっても社会と芸術のかかわりについて学びを深める機会となり、今後のアウトリーチ事業展開への大きな一歩となった。

【越のルビーアーティストの活躍】

当事業団では、毎年「越のルビーアーティスト育成事業」の一環として「越のルビーアーティストバンク」に登録している福井ゆかりの演奏家が主役となる公演事業を行っており、今年度は4公演実施（人材育成事業2-④）したほか、福井メイド公演事業②③（公演事業5、6）、普及啓発事業1-①に出演し、多くの公演に紐づきアウトリーチやクリニックを行う等、幅広く展開。教育普及事業2-③④では、福井ゆかりのプロの演奏家たちと関わることで、身近に目標を定めたり、公演鑑賞を義務付けることで鑑賞者育成にもつながった。また、越のルビーアーティストを広く知り親しんでもらう機会を創ることができた。

【子どもから大人まで、音楽環境を守り、モチベーションを高める】

昨年度も、今年度に引き続き、COVID-19 禍によって、音楽活動も脅かされた子どもたちであったが、将来の地域文化を担う子どもたちへの体験機会を通して、活動意欲向上に努めた。また、大人にとっても都心部と違ってエンターテインメントや娯楽に触れられる機会が限られている中、各地で無料コンサートを開催することにより、移動が制限されがちなお年寄りや妊婦など鑑賞機会が少ない県民にも音楽に親しむ場を提供できた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【当事業団事業部における制作ノウハウの蓄積】

当事業団オーダーメイドの公演制作にかかる出演者側、協働者との折衝・連携や、人材養成・普及啓発への目的に付随した事業展開、さらに広報等、多岐にわたる実務に携わることにより、事業部スタッフ（＝ディレクター）のノウハウ蓄積、経験向上につながった。

特に、公演事業1の付随事業として開催した「木版画ワークショップ」では、福井市美術館の協力を得て初めて開催。今後は、音楽だけでなく美術の普及・発展にも取り組むよう県から命じられていることから、美術館と信頼関係、協力体制を築くことができたことは大変有意義であり、今後に繋がる大きな機会とすることができた。ただし、指定管理者である当事業団へのミッションとして、これまでの年間予算から美術関連の事業予算の比重を増やさざるを得なくなり、これまで数十年に渡って県立音楽堂としての社会的役割として築き上げてきた音楽関連の事業計画は組めなくなり、音楽文化のレベルが低下していく可能性に大きな懸念を抱いている。このような状況にしないためにも、これまでの経験を踏まえうえで県と密に意見交換する場を重ね、指定管理者としての存在意義を示し、発展的な活動に繋げていきたい。

【ひろく県民の活躍の場としての当館のあり方】

地元音楽教室の発表会や地元奏者のリサイタル等の利用により小ホールの日利用率はほぼ100%であるが、平日含む年間を通した大・小ホールの利用率向上が課題である。アマチュア団体、個人演奏家の発表の場を支援するべくR3年度助成を得て開催した「オータムフェスティバル」は、参加者がステージで演奏することの楽しさを改めて体感するだけでなく、公演運営経験を得ることにより、貸館利用促進につながった。R4年度の組織見直しで強化された貸館担当グループのもと「ホール開放デー」に発展させて実施し、新規利用者獲得や既存利用者の定期継続利用を図り貸館業務の安定収入を確保していく。

【組織面】

令和3年度は当館開館24年目、また当事業団の第4期指定管理期間の3年目にあたる。次年度の開館25周年（当事業団は設立40周年）を目前に、福井県からは令和3年7月に「一県民一文化活動」（伝統文化や音楽、アートでまちなかににぎわいを創出する）の実現を目指した県長期ビジョンが提示された。これにより、民間事業者との事業提携により、クラシック音楽だけでなく多彩なジャンルで幅広い客層獲得を目途とする「興行型」公演をメインとしつつ、オリジナルの育成事業を企画していく当館自主事業にかかる新方針の策定、またクリエイティブ・ディレクターの招聘や「芸術文化アドバイザー」の新設、加えて当事業団内の組織改編も進められ、次年度以降の当館運営にはその結果が色濃く反映されるが、県側が予算含む詳細の策定には年度いっぱいまで時間を要したため、次年度の本助成継続申請は断念した。

前途のとおり今一度、行政側も当事業団側も改めて劇場法や指定管理者制度に対する理解を深め、当館運営の理念を共有し、開館25年以降の音楽堂の在り方を考えていきたい。